

日四月二

常磐每日新聞

定額一圓金紙一枚... 発行所 常磐毎日新聞社... 電話六〇七番

創作

雪の夜

木津 茂太郎

(二)

『もう明き相なもんだな』
『志摩ちゃん。』
中の姉の美代子が呼んだのでその顔を見ると
『今度S町の方へ来なさいよ。山田さんが云つたわよ。志摩の奴、いゝ事にして、M座なんかにはかへ行つてやつて、意見をもちやらなくちやならないつてよ』
『山田さんが。ほんとうかい... 美代子さんは時々俺を釣るからな。』
『嘘ぢやないのよ。ねえ姉さん。』
『だから、いつかうちの方へお出なさいよ。山田さんをやんで来ますから。』
標が鳴つて幕が明いた。出語りの太夫が濺い聲を張上げて語り初めたから水を打つた様に見物はしんとした。君子等も一寸静かになつた。敬子は、神妙に見てゐる志摩夫の傍へ来てすわると、黙つて彼の手を握つた。
『何さ。』
『志摩夫が云つた。』
『志摩ちゃん、お話でもし』

ませうよ。あの... あたしね...
と敬子が口走ると
『うるさいわ、敬ちゃん。黙つてなさい。』
と上の姉に言はれた。それでも聲を低めて
『あたし、あなたのお家へ遊びに行つて、行つてもいいの。』

ノート

汗のしみは、すぐなら水洗すればとれます。そしてまはりの水気をぼかしておきます。古くなつたのは糖の煮出しで数回洗ひますと大體とれます。

『いゝさ。お嬢さま御入来つてね。』
『まあ。芝居が、り?』
『そして時が過ぎて行く。十時近くにも成らうとする頃、何を思ったか志摩夫は』

二明日の献立

【朝】胡摩あへ—かんびよ
う はす
【晝】けんちん汁—豆腐 人参 里芋 ごぼう 小松菜
【晩】旨煮一入ッ頭芋 た立ち上つて行かうとした。
『帰るの—』
と敬子がやさしく聞いた
『帰るのさ。用事を思ひ出』



常磐歌壇

鈴木ちえ子

病む君の心の中の思はれて君のみ歌を見るは淋しもうつし身の悲しき身をも忘れ得て訪れて来し友と語りほがらかに語りて居りし吾が友の歸りて後の我は淋しも

花柳科専門

木村外科醫院

入院自炊の便あり
平町五丁目橋際 電話三〇九番

久山團扇店

本年のウチワ。扇子は諸掛のかゝる外來品より、注文に追加に
●萬事便利にて、製品及價格に自信のある山久へ！是非一度御用命を...
平乙女の腕で出来上る町産品

金銀高價買入

根本時計店

平町二丁目(三幸堂跡) 電話六〇七番

印刷御用命

常磐毎日印刷

電話三六〇番

共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙

診療科目

内科	醫學博士 石山謙
小兒科	醫學博士 佐久間重
外科	醫學博士 桂馬重
喉科	醫學士 五十嵐雄二
皮膚科	醫學士 佐久間
産婦人科	醫學士 藤山謙
X光線科	技師 石山謙
衛生試驗所	技師 石山謙
藥局	藥劑士 吉本孝平

◎診療時刻 午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

江戸前料理

錦水

御祝儀 御法事の御料理
多少に拘らず御用命下さい
▼出前！迅速！▲
電話四五四番

お醤油は ヤマフル

醤油味 贈
たひら 正宗
鯉節 食料品

山崎合名會社

福島縣平町(電話營業部ニ醸造工場ニモ)
明治生命會社代理店 山崎與三郎

平商の廿週年記念に

商友會がバツクネット寄贈

平商友會にては母校創立二十週年記念日も間近に迫つたので近日役員會を開き母校への記念品贈呈其他種々催し物に就て協議するが記念品としては多分野球バツクネットを寄贈する事に満場一致可決するらしいと

水道部にも

常任委員制

六日の町會にて
七名を選任する

江名災害

政府米拂下

石城郡江名町では昨年の暴風雨被害者救済の爲めに政府米の拂下方を申請中の處去る二日五百五十俵が到着したので近く分配する事になつた

縣下第一清勝丸

優漁旗授與さる

石城郡江名町佐藤清八氏所有船清勝丸船長吉田留吉氏は昨年中の魚獲高二萬六千三百五十圓に達し縣下一の成績を挙げたので來る十四日縣水産會より優漁旗授與される

江名青訓査閲

石城郡江名町青年訓練所生徒の

本縣水産會主催第一回魚肥煮干品評

煮干品評

出品二百餘點

査閲は來る七日午前八時より小學校庭にて行ふが執行官は福島縣隊區副官である

平商が

磐中と試合

平商業學校柔剣道部にては來る十日午前十時より寒稽古納會式を舉行皆勤者百五

手工の課目を増す

針金や武力細工を

平第一小學校にては本日手工科研究會を開き從來全校児童に對し紙細工、竹細工、粘土細工、木工等を課して居たが新學年より針金細工、ブリキ細工等を加へる事に決定した

磐中競技部

部員送別會

技部にては本日午後一時より來る三月卒業する部員の送別會を催した

平町物價

白米	一等	一キロ	一七〇
白米	二等	同	一六五
白米	三等	同	一六〇
白麥	同	同	一〇〇

小漁港の

本年豫算

豊間と小濱

石城郡豊間村及び植田町小濱等で行はれて居る農林省巨救土木施設として的小漁港は目下豊間工費九萬七千圓小濱三萬圓の豫算で實施されて居るが兩漁港八年度豫算は左の如くである
豊間六萬五千圓 小濱一萬六千圓

十三名を表彰し午後一時より磐城中學校柔剣道部を迎へ今春第一回の對校試合を行ふと

- △四丁目二六 猪狩徳治氏 長女 トモヒ
- △仲間町二八 坂本實治氏 三女 孝子
- △回死 亡
- △長橋町三一 當時東京市 荒川區尾久町一ノ一四四 佐々木喜右衛門(四四)

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

豫告中の發賣品は

満酒よせなん

でした……なべは風味よし味よし〇安すし御來客の御馳走に氣うけよし自慢の味と〇印を!どぞ御試食下さい
御一人前 十五錢

出前迅速

せせら會堂

電話六三三番

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子

十日

体温の検査日です
お宅の体温計は?
正確な体温計を御利用下さい
毎月十日の検査日を御利用下さい

西村屋藥局

電話三番

質流れ衣裳類 一式

御仕立御祝儀物

三丁目通り

旭屋衣裳店

電話四二五番

職員二三名の欠員に

押すな押すなの百餘名

知識階級の就職難

磐城中等校及び平商業學校にては新學期開始と共に學級増加等の關係より二三名宛の教諭が必要となる所から目下就職希望者が押すな押すなで兩校共既に五十名近く上つて居り此の分では學年末近には百名以上の賣込みがあると見られ世はインフレ景氣の春ながら就職難の重層に苦しむ知識階級者苦惱の事實を明らかに物語つて居る

三萬圓で

教室増築

好間村が提案

石城郡好間村にては第一第二兩小學校共に教室の狹隘を告げ新學期よりの兒童困難を來たしたので近く村會に工費三萬圓の増築案を提出すべく準備中であると

難破船二十

修繕成つて

明日鰯漁に出動

既報石城郡江名町黒川喜一郎氏所有船喜榮丸外十九隻の漁船は昨年の暴風雨で難破して以來同港内で極力修

善行兒童を

表彰すべく調査

平第二小學校にては從來兒童の表彰は學年を主として行つて居たが今後は左記事項の善行兒童も表彰を爲す爲め目下調査中であると
一、學校生活に於て諸規則を守り率先して友

兒童一般の模範とするにたるもの其他特別なる善行爲ありし兒童
大澤教諭講演 平商業學校卒業指導第五回商工研究會は來る七日午後七時より庶民金庫樓上に於て開き大澤教諭の協同組合に

留置場破りの

詐欺事件公判

炭礦を種にして

大金騙取の事實をうなづく

過般平警察署の留置場を破つた石城郡赤井村大字赤井字不動堂番地不詳無職
前科三犯 西澤忠作(前)に對する詐欺事件の公判は本日午前より平區裁判所に於て關口判事係り、小林檢察及び吉田書記立會の下に開廷され事實の訊問あつたが被告は昨年四月頃埼玉縣熊谷町杉浦勝次郎に對し鐵道省より石炭納入 代金一萬圓を受取る権利があるかの如く騙して三千圓を騙取した外同年八月頃福島市堂の前和田秀夫にも上粉炭七噸一車を賣渡すと偽り運賃四十一圓八十五圓を騙取した事實等を何れも肯定した

昨年

は傳染病が

幾分減少を見た

平町立傳染病院の昨午間に於ける患者の收容數を見るに合計四十一人うちチフスの二十七名が最高次は赤痢六名、猩紅熱五名、疫癘三名等であるで前年の收容人員五十五名よりも十四名の減少を見て居ると

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間、ハ一モニカ合奏、仙臺ハ一モニカソナエテ
- 指揮鈴木幸四郎
- 後七、三〇 講演「幕末志士の精神」文學博士平泉澄
- 後八、〇〇 能樂「放下僧」水道橋實生會能樂堂より

中繼

- 後九、〇〇 長唄「橋公」中村六廣外
- 後九、三〇 滿洲より
- 後九、四〇 全國ニユース氣象通報 番組豫告

明日の部

- 前九、一〇 榮養料理「焼竹輪と里芋の付」榮養研究所

今夜は北西の風晴曇半し明日は時々小雪

平第一校の學藝會

成績品展覽會と共に

平第一小學校にては來月上旬全校兒童の成績品展覽會及び學藝會を開催すると

宿料を踏み

逃走中に捕る

石城郡豊間村薄磯旅人宿山形屋に去る卅一日より宿泊した茨城縣水戸市上市棚町萬年筆行商人近藤輝雄(三)は去る三日夜九時頃芝居見物に出掛けた儘宿代其他七圓館を踏んで逃走したが十一時頃小名濱築港附近を徘徊中駐在所員に取押へられた

平職業紹介所報告

求人を求める方

△雜夫 二十才 尋卒 七圓(江名町某)
△女中 二十才 尋卒 給料面談(小名濱町某)

後二、二〇 運動競技 全日本東西對抗ラグビー試合狀況一明治神宮外苑トックより中繼

後六、〇〇 子供の時間 唱歌劇「冬」B.K.コドモサークル

後六、三〇 講演「世界一の雪害をたてる日本を眺めて之が對策に及ぶ」松岡俊三

後七、三〇 獨唱 獨唱タンドイムケンケンジ、ピアニオ伴奏パウロローゼンジュニタシト

後八、一〇 人形浄るり 「近頃河原達引」文樂座より中繼

食事

喫茶

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電一〇七

市原醫院

平町田町(電話一四番)

内科小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科梅毒、淋病 市原三三男

入院隨時

霧

【禁演上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百五十九席 千葉周作

佐吉ヤパン

馬藤は武家に捉へられた小
手を振拂ひ、足を飛ばして
蹴つたヒラリ身を交した彼
の武家は其足を押へてスル
リと引く、アツといふと馬
藤はバツタリたふれた、そ
れを見て武家はアハ、と
打笑ひ、どうだ人足痛いか
と云ひました

藤『この野郎何をする』

と又起き上るを頭を押へ
付けたが馬藤は動けない

武『騒ぐな、この上にも手
逆ひいたすとこの首を胸へ
押込むぞ』

藤『恐ろしい奴が来た、そ
の手を放してくれ、頭が碎
けてしまふ』

武『ツレ立て』

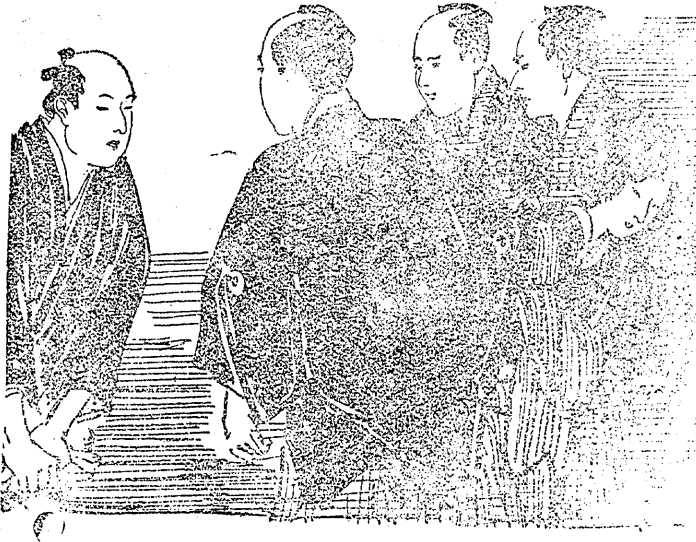
首を押へてグーと引て、

武『不埒な奴だ、女をとら
へてなんとする』

藤『どうするものかい、親
分を成佛させるために殺し
てしまふのだ、その女を渡
してくれ』

武『なんと申す、親分の成
佛する爲にこの女子を殺す
と奇代な事を聞くものだナ
コレ／＼女、貴様はこの男
に殺される程の罪を犯した
か』

聞かれておせいが



せい『この男のいふ事は嘘
でございませう、なんでわた
しがそんな悪い事をいたし
ませう』

武『さうかコレ人足、貴様
はそのやうな口實をまうけ
てこの女子を手ごめになさ
れ』

藤『オイ清瀧の兄いこつち
へ出て来てくん少少仕事
返すことは出来ねえ、一緒
に行つてくんねえ』

武『待て／＼此人足の申す
ことは、一から十まで作り
事とも思はれぬ、まあ待て
』

女の腕をビタリと抑へた
おせいもかうなつては逃げ
る事は出来ない、馬藤は渡
し小屋へかけて行き

藤『お武家こゝへ證人を伴
れて来た、この人から
其女のよくねえ事を聞いて
おくんなきさま』

武『コレ／＼貴様とこの女
とはどういふ縁故がある』

佐『これは初めまして御目
にかゝります、わたくしは
下總香取郡笹川河岸の繁藏
の子分清瀧の佐吉と申す者
でございます、又それに居
ります女はわたくし親分繁
藏の女房でございます、お
せいと申します』

武『ウソ笹川の繁藏と申す
者は俠客であるな』

佐『左様でございます、關
東一の親分でございます、
それが昨年蛇山と申す處で
飯岡の助五郎の子分の爲に
横死致しまして御座います
スルとそれにある女親分の
女房でございますがそれが
友藏と云ふ子分と出来あひ
まして親分が遺して置いた
田畑を金に替へ十一屋と云
ふ旅籠屋をその株を付けて
賣り千住へ出て来て居酒屋
をして居ります、親分の墓
の土もまだ乾かぬ内に情夫
をこしらへて立退くとは女
の道に背いた仕業、定めし
冥土で親分が憎んで居るだ
らうと存じまして友藏と申

んといたすか不届者め』

藤『それは女の云ふ事がう
そだ、まあお武家さまわつ
ちが悪いのかこの女が悪い
か今證人を伴れて来ますから
よく聞いておくんなきさま
す』

藤『さらはれたとて遠方へ
飛んだわけではねえ、侍の
傍にゐるんだ俺の／＼では取

返すことは出来ねえ、一緒
に行つてくんねえ』

武『待て／＼此人足の申す
ことは、一から十まで作り
事とも思はれぬ、まあ待て
』

女の腕をビタリと抑へた
おせいもかうなつては逃げ
る事は出来ない、馬藤は渡
し小屋へかけて行き

藤『お武家こゝへ證人を伴
れて来た、この人から
其女のよくねえ事を聞いて
おくんなきさま』

武『コレ／＼貴様とこの女
とはどういふ縁故がある』

佐『これは初めまして御目
にかゝります、わたくしは
下總香取郡笹川河岸の繁藏
の子分清瀧の佐吉と申す者
でございます、又それに居
ります女はわたくし親分繁
藏の女房でございます、お
せいと申します』

武『ウソ笹川の繁藏と申す
者は俠客であるな』

平町二丁目
三井タクシー
電話六八五番

木村科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九

三河産業博覽會 金牌受賞
昭和産業博覽會
かまぼこ製造
お惣菜用 さつま揚 吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

吸入用酸素 純度 99%
モノサシ 体温器
マラス 寒暖計
ハカリ
●秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
關内藥局
電話四〇番

貸切の●●●
御用命は！
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九二タクシーへ!!!